

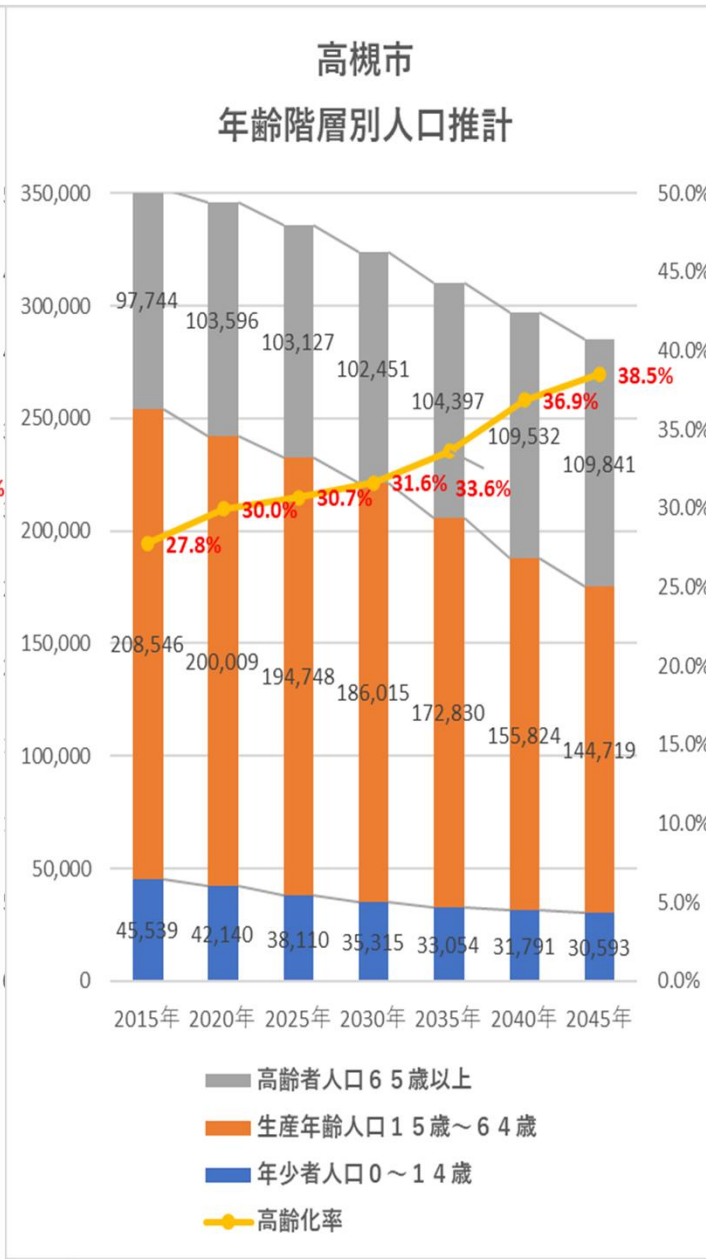
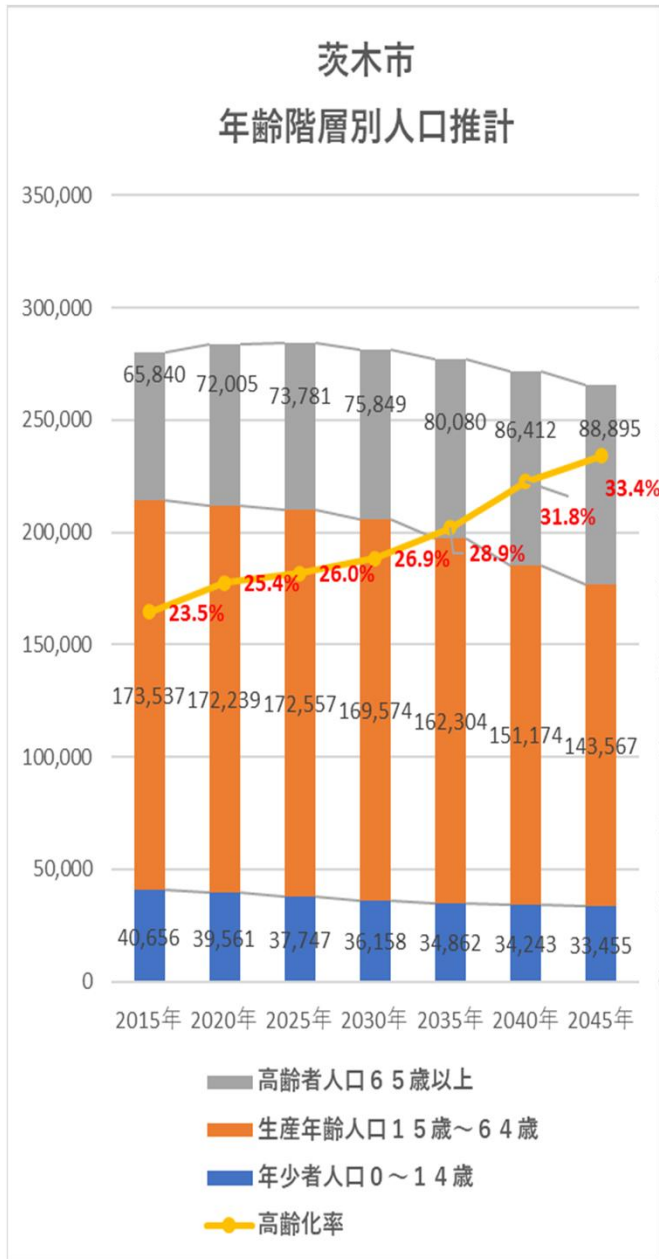
医療病床懇話会

高槻市・茨木市 急性期病床等 医療提供体制の状況（比較）

茨木みどりヶ丘病院

社会医療法人 祐生会

◆茨木市・高槻市年齢階層別人口推計

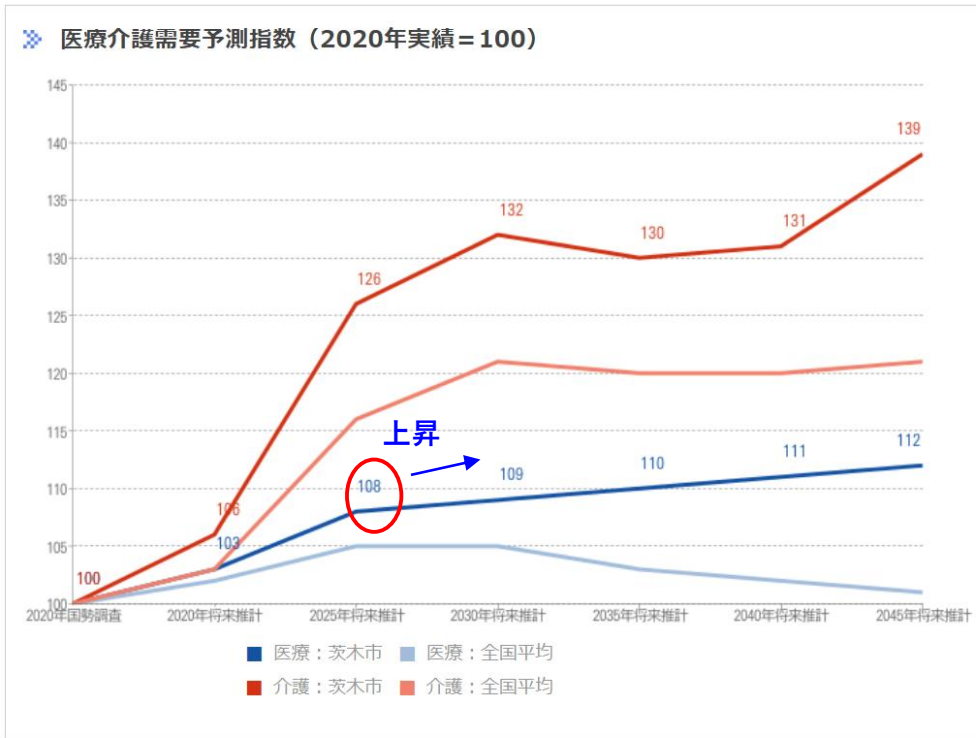


出典：「日本の地域別将来推計人口（平成30年推計）」

国立社会保障・人口問題研究所

◆茨木市 医療介護需要の予測指数

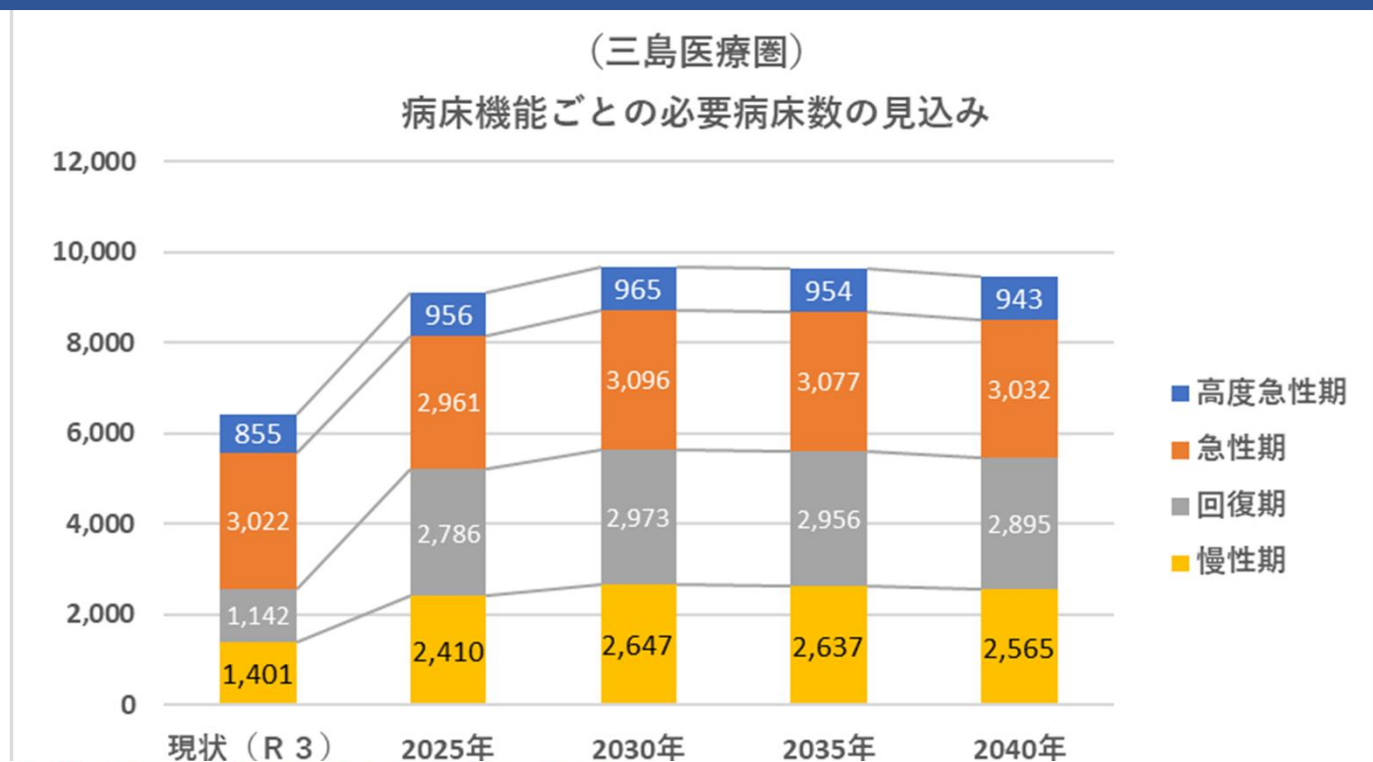
茨木市



茨木市の医療需要
予測は上昇する。

日本医師会：地域医療情報システムより出典

◆三島医療圏必要病床数の見込み



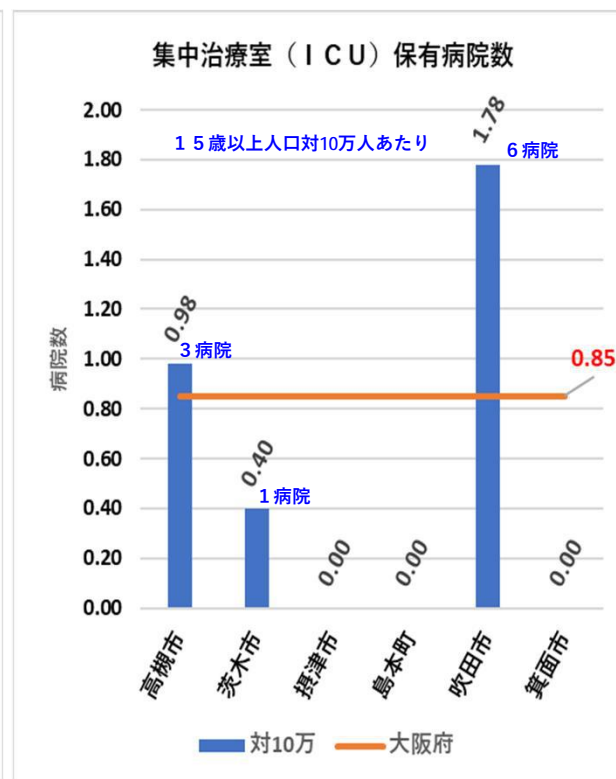
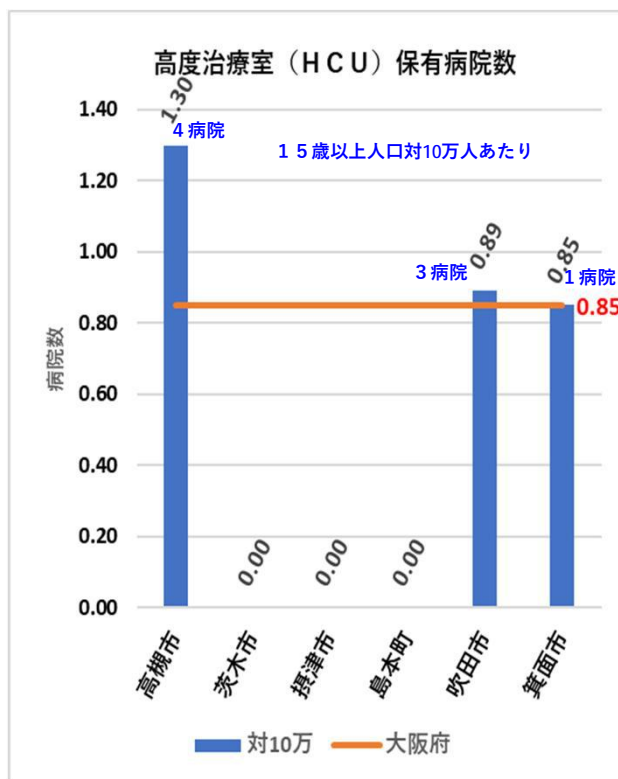
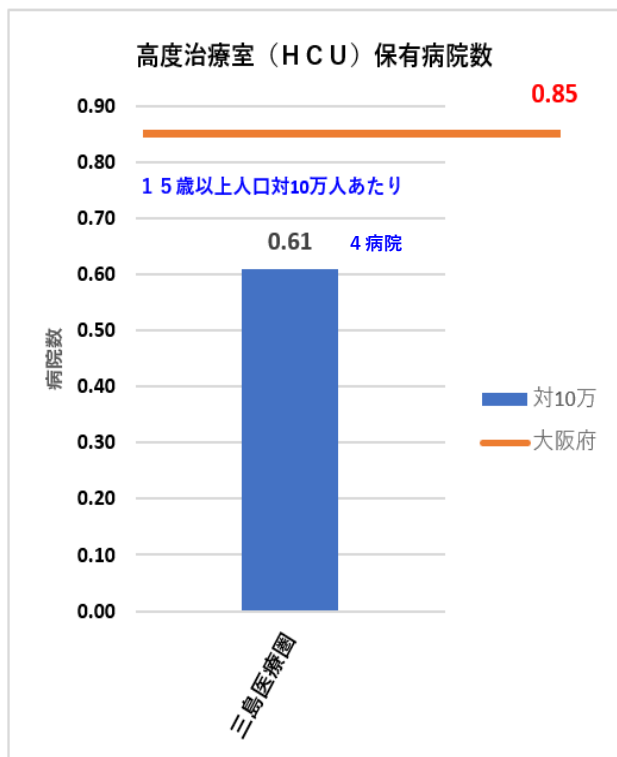
〈三島二次医療圏の病院プランと病床必要数との比較〉

区分	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	計
令和3年度病院プラン (現状)	855	3,022	1,142	1,401	6,420
	13.3%	47.1%	17.8%	21.8%	100.0%
うち茨木市	77	492	802	902	2,273
	3.4%	21.6%	35.3%	39.7%	100.0%
2025年度病床数の必要量②	956	2,961	2,786	2,410	9,113
	10.5%	32.5%	30.6%	26.4%	100.0%
①-②	▲101	61	▲1,644	▲1,009	▲2,693

診療実態等の報告がなく分類不能な病床数を「急性期」に含む

◆三島医療圏 医療提供体制 ICU/HCU

- ・三島医療圏でHCUを有する病院数（対人口10万人）は大阪府の平均より低く、茨木市にはHCUを保有する病院はゼロ「0」
- ・茨木市のICUを有する病院数（対人口10万人）についても大阪府の平均を下まわっている



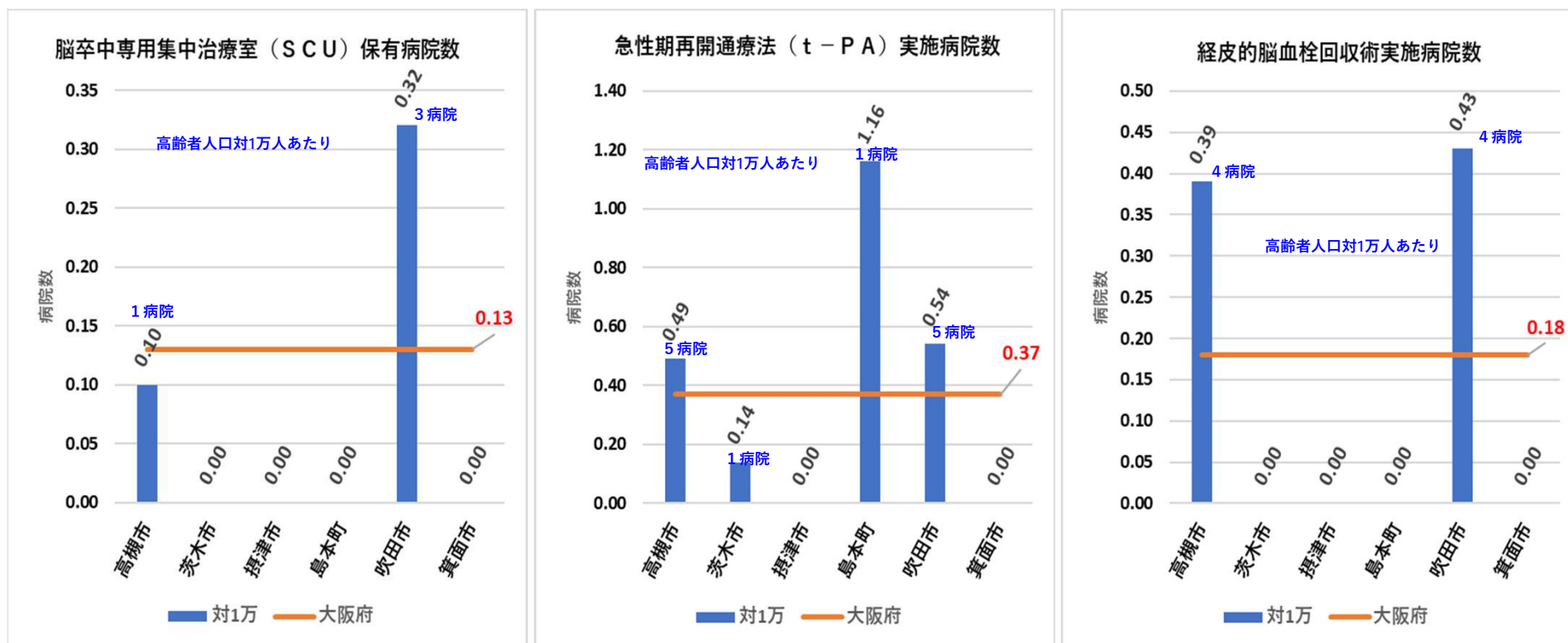
大阪府：市区町村別・年齢（5歳階級）別推計人口（令和5年3月1日現在）

大阪府：医療機関情報システム

よりデータ抽出加工

◆三島医療圏 医療提供体制 SCU

- ・茨木市には脳卒中専用集中治療室（SCU）は有しておらず、血栓回収術実施病院もない、また「t-P A」実施病院数は大阪府の平均に満たない状況である。



大阪府：市区町村別・年齢（5歳階級）別推計人口（令和5年3月1日現在）

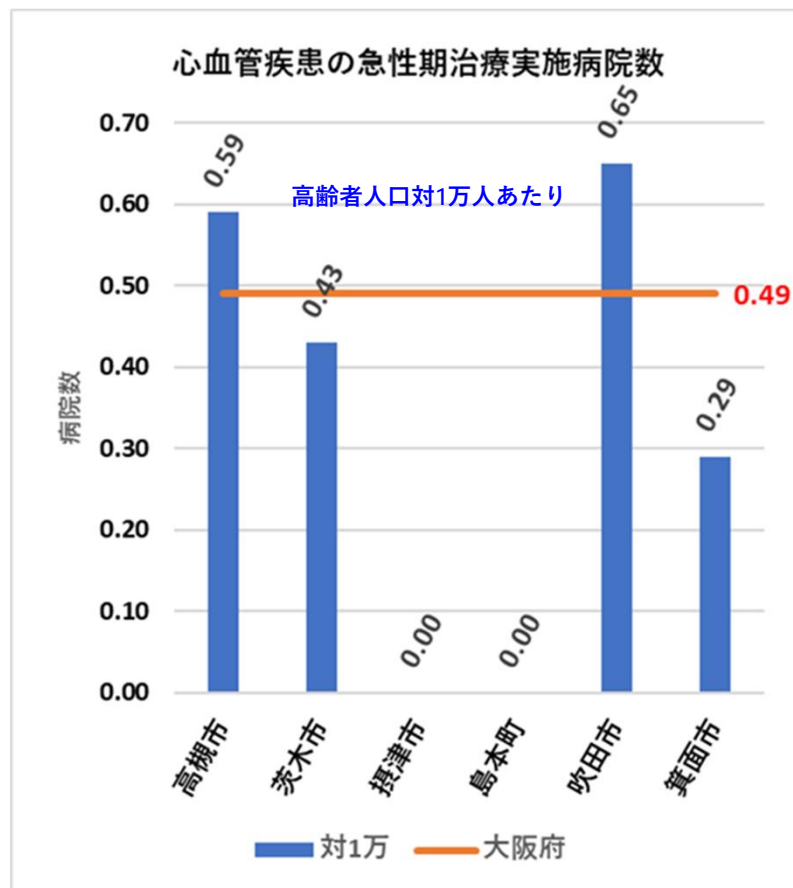
大阪府：医療機関情報システム

よりデータ抽出加工

◆三島医療圏 医療提供体制 高齢者（65歳以上）1万人あたり病院数

心血管疾患

- 茨木市の心血管疾患の急性期治療を行う病院数は0.43で大阪府の平均を下回っている。

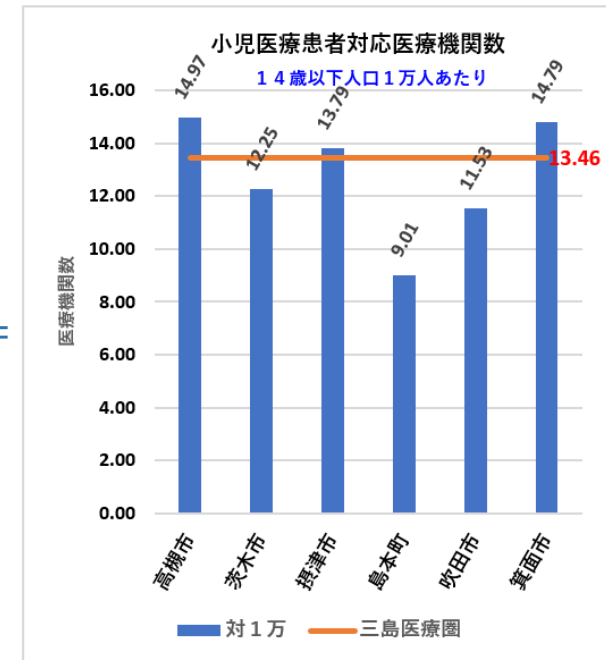
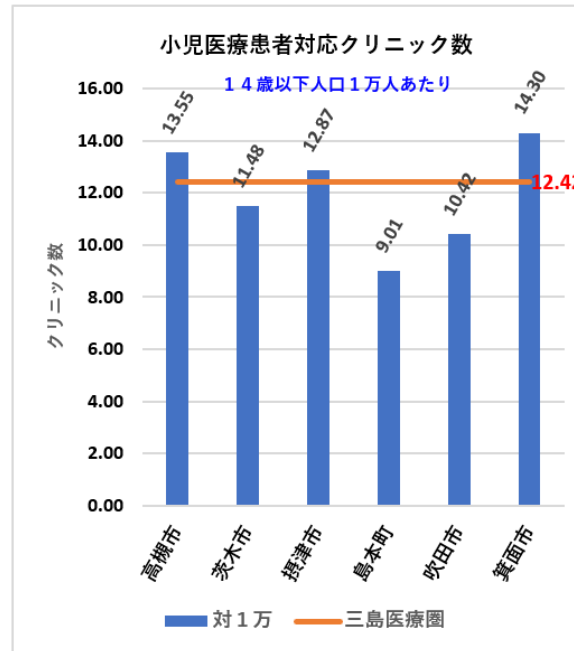
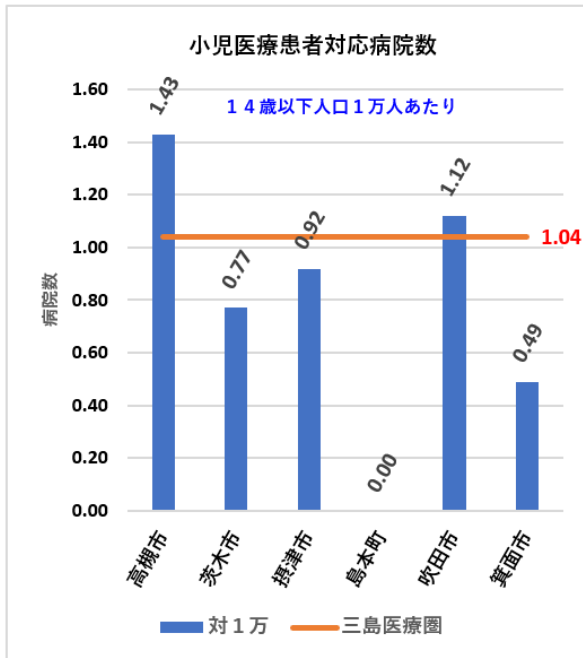


大阪府：市区町村別・年齢（5歳階級）別推計人口（令和5年3月1日現在）よりデータ抽出加工
大阪府：医療機関情報システムより

◆三島医療圏 医療提供体制 14歳以下人口1万人あたり医療機関数

小児医療対応

- 三島医療圏において小児科標榜の病院を14歳以下人口対1万人でみると茨木市は高槻市、摂津市に比べ病院数が少なく、小児科標榜のクリニックについても同じく、高槻市、摂津市に比べ少ない状況となっている



14歳以下人口1万人あたり小児科医療対応医療機関数

区分	高槻市	茨木市	摂津市	島本町	吹田市	箕面市	三島医療圏
病院数	6病院	3病院	1病院	0病院	6病院	1病院	10病院
対1万	1.43	0.77	0.92	0.00	1.12	0.49	1.04

14歳以下人口1万人あたり小児科医療対応診療所数

区分	高槻市	茨木市	摂津市	島本町	吹田市	箕面市	三島医療圏
クリニック数	57	45	14	4	56	29	120
対1万	13.55	11.48	12.87	9.01	10.42	14.30	12.42

14歳以下人口1万人あたり小児科医療対応医療機関数

区分	高槻市	茨木市	摂津市	島本町	吹田市	箕面市	三島医療圏
医療機関数	63	48	15	4	62	30	130
対1万	14.97	12.25	13.79	9.01	11.53	14.79	13.46

◆茨木市の受療動向

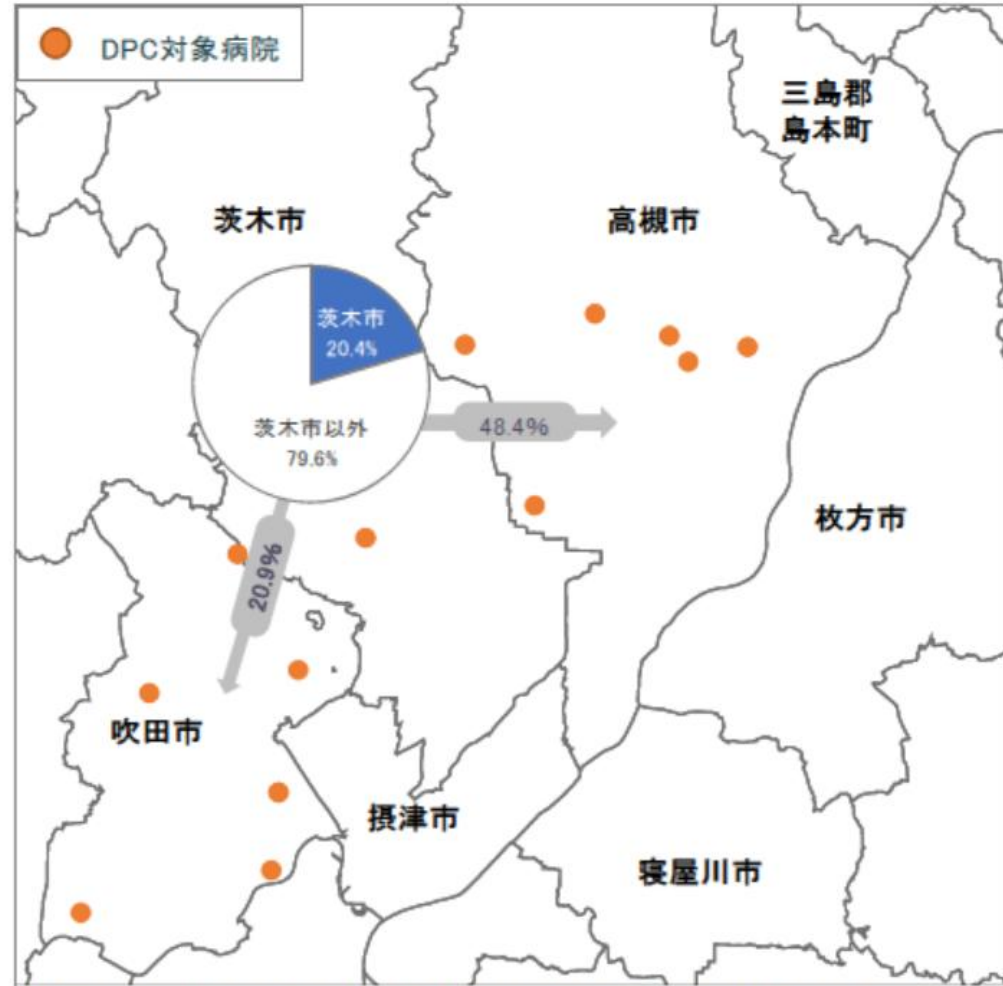
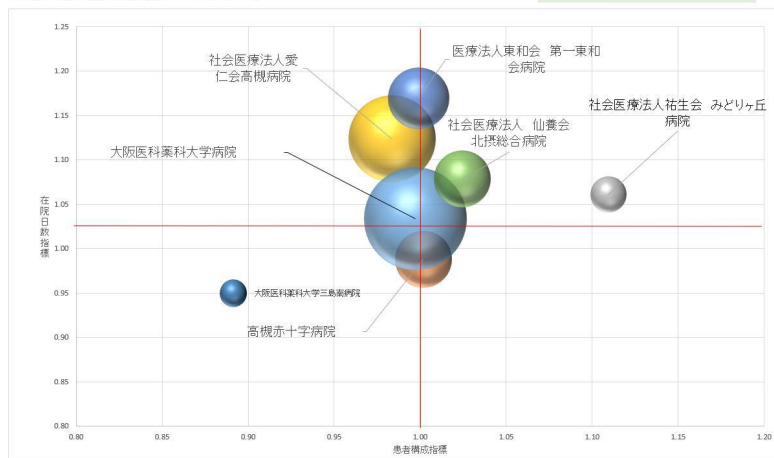
全疾患（急性期）・急性期医療を担うDPC対象病院は茨木市内に1施設、高槻市内に6施設、吹田市内に7施設となっている

◆茨木市内での受療が20.4%
高槻市内への受療が48.4%
吹田市内への受療が20.9%
その他への受療が10.3%
となっている

◆茨木市内での受療では、済生会茨木病院への受療が多く、内分泌・栄養・代謝に関する疾患、外傷・熱傷・中毒のシェアが高い

◆神経系疾患は大阪大学医学部附属病院（吹田）への受療が。血液・造血器・免疫臓器の疾患は高槻赤十字病院への受療が多くなっている。

令和2年度MDC分類別 ベンチマーク



出典：茨木市国民健康保険及び後期高齢者医療制度レセプトデータ (DPCレセプトデータ)(2018年4月～2019年3月)

◆茨木市の受療動向

脳血管疾患

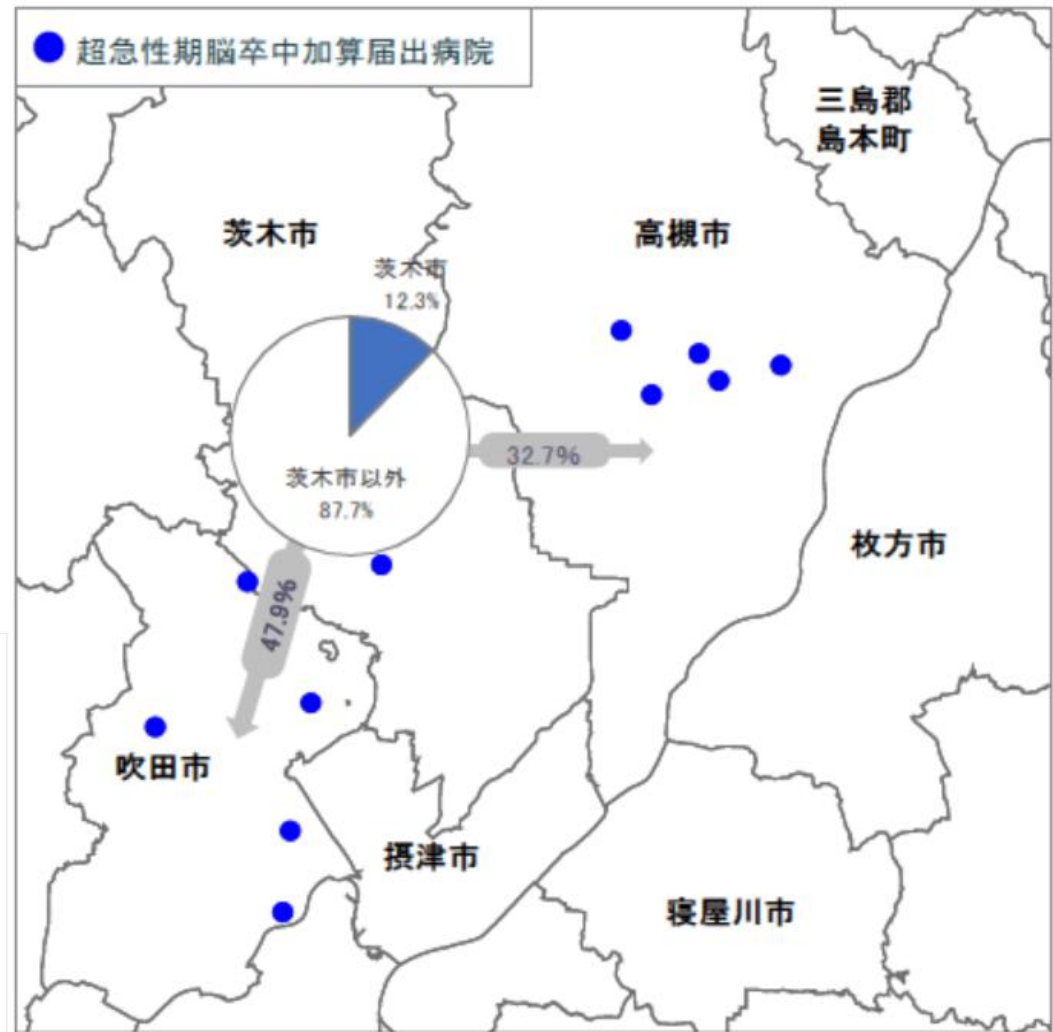
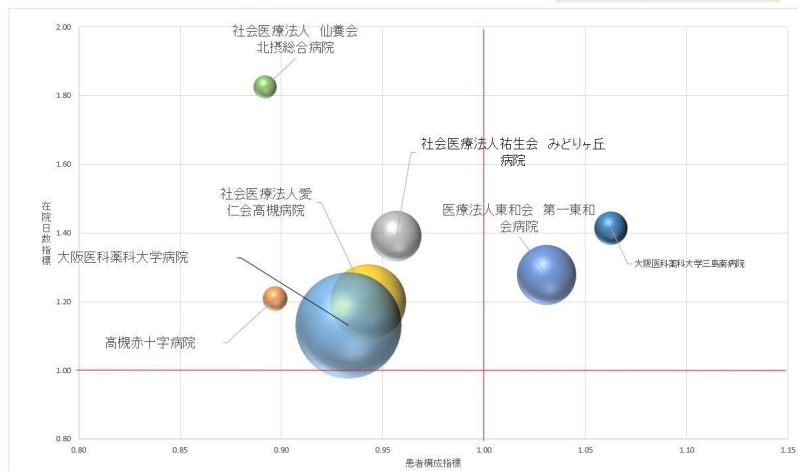
◆脳血管（急性期）は茨木市内での受療が12.3%、吹田市内への受療が47.9%、高槻市内への受療が32.7%、その他への受療が7.1%となっている。

吹田市では国立循環器病研究センター、

高槻市では、みどりヶ丘病院、大阪医科薬科大学医学部附属病院への受療が多い

令和2年度MDC分類別 ベンチマーク

MDC01神経系



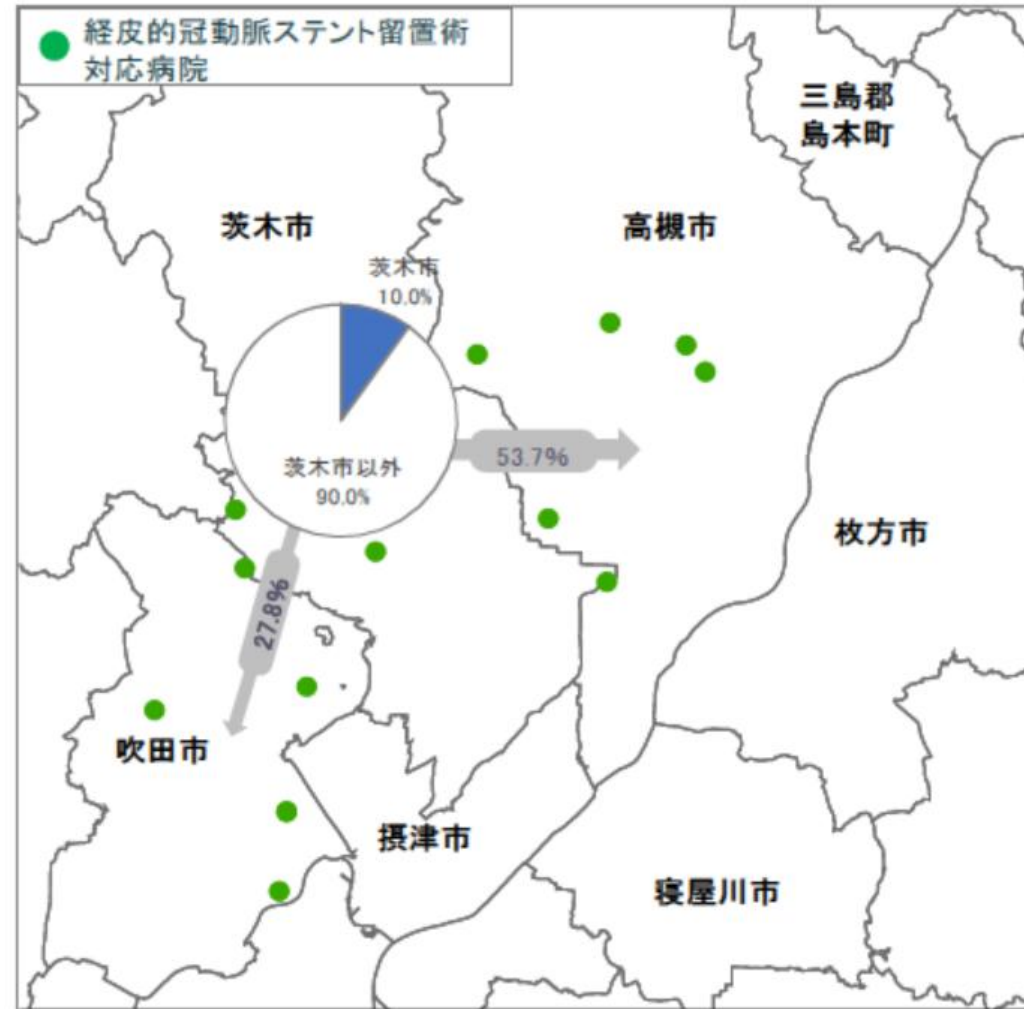
出典：茨木市国民健康保険及び後期高齢者医療制度レセプトデータ (DPCLレセプトデータ)(2018年4月～2019年3月)

茨木市：茨木市及び周辺圏域の詳細分析・将来予想及び必要となる医療機能の分析結果より

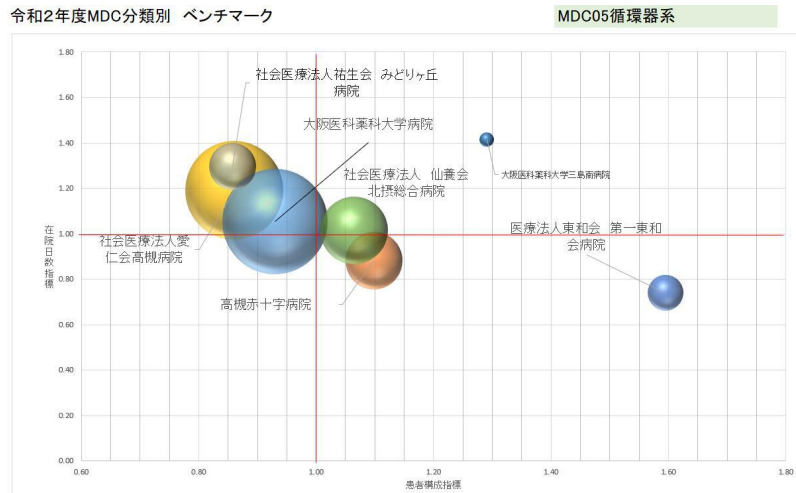
◆茨木市の受療動向

心血管疾患

◆心血管（急性期）は茨木市内での受療が10.0%、高槻市内への受療が53.7%、吹田市内への受療が27.8%、その他への受療が8.1%となっている。
 大阪医科大学附属病院、国立循環器病研究センター、北摂総合病院、高槻赤十字病院への受療が多い。



出典：茨木市国民健康保険及び後期高齢者医療制度レセプトデータ (DPCLレセプトデータ)(2018年4月～2019年3月)



茨木市：茨木市及び周辺圏域の詳細分析・将来予想及び必要となる医療機能の分析結果より

まとめ

- 大阪府モデルの出現で急性期病床が高度急性期病床へ申請変更された（茨木**77**対**1266**高槻）
- 高度急性期・急性期病床合わせて検討したところ（茨木 **729** 対 高槻 **2220**）
と約3倍差がある

DPCデータ上

茨木市内で受療できた割合

脳血管疾患：**12.3%**

心血管疾患：**10.0%**

急性期全疾患：**20.3%**

市内受療率は低い

質問1

Q

病床転換の方向性は地域医療構想の方向性と一致しているが、茨木市中心部に大幅に急性期を移す計画であり、医療人材の不足や既存医療機関との競合が懸念される。

→

脳血管疾患・心血管疾患・小児疾患等の救急医療を中心とした再編案である
近隣医療機関と競合はしにくいと考えます

→

人材に関しては同一法人内での人事異動を中心に考えている

質問2

Q

茨木の急性期稼働率の現状からみて、急性期病床を増やす需要はあるのか。

高度急性期・急性期病床合わせて検討したところ（茨木 729 対 高槻 2220）
と約3倍差がある

DPCデータ上

茨木市内で受療できた割合

脳血管疾患：12.3%

心血管疾患：10.0%

急性期全疾患：20.3%

市内受療率は低い、急性期稼働率が上がらない原因？

地域支援病院をめざす：クリニックとの良好な関係性を構築
災害時にも地域貢献できる病院を目指す